



「なぎさ海道」 ~人・ふれあう・海~

大阪府政策企画部企画
((財)大阪湾ベイエリア開発推進機構)

宮本信治

はじめに

平成3年4月、「大阪湾開発整備のグランドデザイン」が発表されました。この「グランドデザイン」で提案された8つのシンボルプロジェクトの第1番目に掲げられているのが「なぎさ海道」です。

同年12月に(財)大阪湾ベイエリア開発推進機構※(以下「ベイ機構」という。)が設立されてからは、ベイ機構を中心に「なぎさ海道」の具体化のための調査研究などが進められ、平成9年3月、『「なぎさ海道」推進マスタープラン』が策定されています。

ここでは、「なぎさ海道」に係る経緯と具体的な取組について紹介します。

※(財)大阪湾ベイエリア開発推進機構は、大阪湾岸地域に関する一体的利用を促進するため、新たな高次機能の集積、快適な生活空間の形成等大阪湾岸地域の総合的開発整備に関する調査研究、企画立案、合意形成の促進、広域的協働取組の促進等を行い、多極分散型国土の形成に寄与することを目的として、平成3年12月、関西の官・産・学の協力により国土庁、通商産業省、運輸省及び建設省(現国土交通省及び経済産業省)を主務官庁として設立され、大阪湾岸地域を中心とした関西における広域的な連携を促進するために様々な調査研究等を行っています。

「なぎさ海道」とは

(1) 大阪湾ベイエリアの開発整備のグランドデザイン
大阪湾ベイエリア開発推進協議会(関西の7府県知事、3政令市長、経済団体代表者、学識経験者により平成元年9月発足)は、「世界都市“関西”形成

のフロンティア」を開発理念とする「大阪湾ベイエリア開発整備のグランドデザイン」を発表しました。

この「グランドデザイン」では、「大阪湾ベイエリア開発整備に関わるセクターが一体的に共同して取り組み、大阪湾ベイエリア開発整備の総合性を発揮するプロジェクト」として、「なぎさ海道」を含む8つのシンボルプロジェクトが示されています。「なぎさ海道」については、その背景・目的と整備内容として、概ね次のように述べられています。

《背景・目的》

1. 大阪湾の水際は、かつて輝く白砂と松林によって全国でも有数の美しい浜辺を形成していたが、今日、人々が安全で自由に楽しむことのできる水際線は極めて少ないのが現状である
2. こうした中で、親水公園やレジャースポット、海洋性レジャー空間として整備されつつある
3. しかしながら、水際線の公共開放が不十分であり、失われた自然を回復し、快適な都市環境づくりに寄与するため、港湾機能等との整合を図りながら、積極的に親水空間を創出していく必要がある

《整備内容》

1. 人々が大阪湾とふれあい、楽しむことができるように、緑・水辺・ビューポイントなどの拠点整備と景観整備、拠点を結ぶ遊歩道や自転車道などによる広域的、有機的なネットワークを形成
2. 水際線については、人工海浜の整備、緩傾斜護岸の活用、水際プロムナードの整備、海洋性レジャースポットの整備により、公共への開放を推進
3. 白砂青松の美しい浜辺を20世紀のメモリアルと

して望ましいスケールで復元し、「20世紀記念・白砂青松公園」として整備

4. 伊勢、飛鳥、奈良、和歌山、京都、大阪、神戸を結ぶ「歴史街道構想」と連携しつつ整備

(2) 「なぎさ海道」推進マスタープランの策定

「グランドデザイン」での位置付けとその後の調査研究による提案を踏まえて、ベイ機構では1997年(平成9年)3月、〈人・ふれあう・海〉をテーマとする「なぎさ海道」推進マスタープラン(以下「マスタープラン」という。)を策定しています。

このマスタープランでは、「なぎさ海道」を次のように定義しています。

《目的》

「なぎさ海道」は、自然環境の保全と持続可能な開発を基本に、社会経済基盤の整備を進めつつ、人と海とが豊かに触れ合うことを目指し、海辺のみならず、海、河川、内陸、さらには関西の持つ豊かな歴史的・文化的資源と連携しながら、大阪湾バイエリアの新たな可能性を創造する。

《対象エリア》

「大阪湾臨海地域開発整備法」で定められた大阪湾・播磨灘・紀伊水道に広がる海辺とその周辺地域を含む、1,500kmの海岸線を持つ地域。

《定義》

「なぎさ」とは、多様な生物が生息し、豊かな自然が広がっている波打ち際を指す。

「海道」とは、人、モノ、情報が行き交い、様々な人間活動が展開されている海岸に沿った道や地域を意味する。

「なぎさ海道」とは、このふたつが重なり合うことで生まれる、人と海とが豊かに触れ合う魅力ある海辺空間の象徴。具体的には、地域の特徴を生かした「拠点」と、それらを結ぶ「海辺の路」とによって構成される。

《取組の方向》

新しい連携のしくみと市民参加に基づく発見・ネットワーク・参加をキーワードに「なぎさ海道ムーブメント」を起こし、生活・地域・産業の全般にわたる「大阪湾バイエリアの新たな可能性の創造」に

取り組み、世界都市“関西”の形成につなげる。

■発見 もっと知ろう・伝え合おう・海辺のことを

■ネットワーク 海辺から人・モノ・情報の新しい連携を

■参加 市民ひとりひとりの海辺への関わりを求めて

また、「なぎさ海道」の実現をめざす具体的な取組として、次のようなことが掲げられています。

■広報 ○「なぎさ海道」推進マスタープランの配布・広報

○「なぎさ海道」マップの作成・配布

○「なぎさ海道」魅力の募集

○「なぎさ海道」サイン計画

■交流・連携 ○「なぎさ海道ワークショップ」の開催

○「なぎさ海道」連携モデル事業の提案

■調査・研究 ○「なぎさ」地域学の研究

○モニタリング・システムの研究

さらに、「なぎさ海道」に関する情報収集を行うとともに、「なぎさ海道」実現の取組を推進し、新たな取組を検討するなど「なぎさ海道」実現の中心的役



「なぎさ海道」エリア図

割を担う組織として、学識者や国、府、県、市町、企業、経済団体などの代表によって構成される「なぎさ海道」推進会議の設置がうたわれています。

「なぎさ海道」具体化への取組

マスタープランに基づき、シンポジウムやフォーラムの開催、市民団体とのネットワークづくりなど様々な取組が進められてきました。ここでは、現在行われている主な取組を紹介します。

(1) シンボルマークの制定

「なぎさ海道」を広くPRし、市民に親しんでもらうため、平成12年にシンボルマークを制定しています。



「なぎさ海道」シンボルマーク

「なぎさ海道」でくりひろげられる人と海との新しい関係を、わたしたちが子どものころに描いたなぎさの絵のように、ぬくもりのある素朴なタッチで表現しています。ブルーとページユのシンボルカラーは、潮の香り、さざ波の響きや風の音など、自然の息吹と人々が集う、明るく開放的な海辺の空間を象徴するものです。

(2) 「なぎさ海道」資源登録

「なぎさ海道」にふさわしい海辺に立地する「拠点」や「海辺の路」などのハード資源、海辺で展開される「祭り」や「イベント」などのソフト資源の登録を行っています。(現在登録数 560件)

(3) 「なぎさ海道」ウォークの実施

自治体やNPO、電鉄会社等と協力して、「なぎさ海道」登録資源や地域の名所等を巡る「なぎさ海道」ウォークを実施しています。平成18年度は1月現在で計37回実施し、約1万3千人の方が参加されました。大阪府内の自治体又は関係団体によるものは、泉佐野市及び泉佐野公園緑化協会の主催するものが各1件です。(平成17年度実績：30回実施、参加者数約1万5千人)



(4) 「なぎさトレイル」マップの作成・配布

「なぎさ海道」登録資源や周辺資源を活用した、誰もが安全、快適に利用できる海辺の路「なぎさトレイル」を提唱し、地元市町の協力を頂きながら、市民向けのマップを作成・配布しています。平成18年度は堺市を対象に取り上げています。(平成17年度までに9地区作成。大阪府内では、泉佐野～りんくう公園～田尻、マーブルビーチ～サザンビーチ(泉佐野市、田尻町、泉南市)、阪南～岬の3地区。)

(5) 「なぎさ海道」市民活動への助成

平成17年度から、「なぎさ海道」の目的達成のために大阪湾の環境改善、ベイエリアのにぎわいづくりなどに取り組む市民団体等の活動への助成を行っています。平成18年度は6団体に助成しています。(平成17年度助成団体：6団体)

(6) 「なぎさ海道」推進会議の運営

「なぎさ海道」実現のための取組を推進する中心的役割を果たす組織として、学識経験者や国、府

県・市町、経済団体、企業などで構成する「なぎさ海道」推進会議が平成9年7月に設立されており、ベイ機構が事務局となっています。

大阪府内の市町としては、大阪市、堺市、高石市、泉大津市、忠岡町、和泉市、岸和田市、貝塚市、熊取町、泉佐野市、田尻町、泉南市、阪南市及び岬町の10市4町がメンバーとなっています。

(7) 情報発信・広報

ホームページ (<http://www.o-bay.or.jp>) や広報誌「O-BAY (オーベイ)」を活用して、登録資源やウォークなど「なぎさ海道」に関する情報を提供しています。また、様々なイベント等にも参加し、「なぎさ海道」のPRを実施しています。

(8) 調査研究

以上(1)から(7)に加え、今年度は「なぎさ海道」におけるパブリックアクセスの確保についての調査を実施しています。この調査は、大阪湾ベイエリア地域を取り巻く社会的背景や経済活動、市民ニーズの変化等を踏まえ、「なぎさ海道」における今後のパブリックアクセスの確保に向けた検討を行う必要が生じていることから、各自治体での「なぎさ海道」の活用状況や今後の意向などを整理し、課題の取りまとめを行うことを目的としています。そのために、「なぎさ海道」推進会議のメンバーである自治体に対するアンケート調査を実施中です。この調査結果等も基にして、19年度以降の事業の進め方等を検討していきたいと考えていますので、お手数ですが、ご協力をお願いします。

これまでの成果と今後の課題

(1) 成果

今日までの「なぎさ海道」の取組を振り返ると、概ね次のような成果があったと考えています。

①「なぎさ海道」の各種取組による海への社会的関心の高まり

「なぎさ海道」の目標とこれを踏まえた各種の取組を通じて、海への社会的な関心の高まりが見

られるようになりました。同時に、大阪湾ベイエリアに係わりを有する市民、行政、企業、専門家など関係者の間に、「なぎさ海道」の言葉とイメージが少しずつ浸透しつつあります。

海への社会的な関心の高まりや「なぎさ海道」イメージの社会への浸透とも関連して、「なぎさ海道」に係わる各種の取組が進展しました。マスタープラン策定以降、市民や関係自治体の参加・協力をいただきながら、さまざまな取組が行われ、少しずつ形を変えながら、現在の「なぎさ海道の資源登録」、「なぎさ海道ウォーク」、「なぎさトレイルマップ」、「市民活動助成」として継承・発展・進化して今日に至っています。

②関連する取組に進展

「なぎさ海道」の取組は、関連する取組にも波及しています。

最近では、平成16年3月に策定された「大阪湾再生行動計画」を契機に、多くの関係者が参加して大阪湾の環境再生に取り組むこととなりました。

同年4月には、「人と海が豊かにふれあえるなぎさづくり」を基本理念とする「瀬戸内なぎさ回廊づくり構想」(兵庫県)が策定・公表されています。

また、同年11月に創設された「大阪湾見守りネット」*は、市民団体との連携・協力のためのネットワークづくりに取り組んだ「なぎさ海道市民ネットワーク」(平成12年度～平成16年度)を背景に生まれたものです。この「大阪湾見守りネット」の創設は、「なぎさ海道」の取組が実を結んだ一例と言えます。

※大阪湾見守りネット

市民参加の環境モニタリングシステムの構築に向けた取組から生まれ、個人や市民組織、行政、専門家等によるプラットフォーム(交流と連携の基盤)を目指しています。主な活動としては、「ほっといたらあかんやん!大阪湾フォーラム」の開催があり、今回は平成19年3月4日(日)に岸和田市内での開催が予定されています。

(2) 課題

ランドデザインの公表から15年、マスタープラ

ンの公表から9年が経過しています。

この間、「なぎさ海道」の考え方と構想は、大阪湾ベイエリアにおいて具体化され、貴重な成果がもたらされましたが、今後に向けて、なお幾つかの課題が残されています。

①ハード事業との連携

マスタープランに基づく取組は、ベイ機構を中心に、市民、関係自治体、企業等が連携して行われてきたもので、具体的な施設などを整備するというハード事業ではなく、既に地域にあるストックや人材などを活用したソフト施策です。今後は、国、関係府県や関係市町など行政との連携をさらに強めるとともに、親水公園や親水護岸の整備、「海の駅」整備などのハード事業との連携をどのように進めていくか、その方策を検討する必要があります。

②一般市民への普及・定着

「なぎさ海道」の考え方と構想をさらに広範な市民と地域に普及・定着させていくということも課題の一つです。これまでの取組により、「なぎさ海道」の考え方と構想はそれなりに普及したと考えていますが、大阪湾ベイエリアにおける人と海との豊かなふれあいをめざすという点から言えば、さらに幅広い市民や関係者（行政、企業、学校、大学、漁協等）の理解・共感・支持を広げていくことが重要です。具体的には、登録資源の有効活用、市民活動への助成や「なぎさ海道」ウォークを通じた地域の市民団体・一般市民との交流・参加の促進、「なぎさ海道トレイルマップ」の活用などを通じて、「なぎさ海道」の取組をより活発化させ、その考え方と構想をより広く深く地域に浸透させていくことが必要です。

③「なぎさ海道」の取組の再構築

これまでの取組の成果と市民のニーズ等を踏まえて、これまでの取組を継承するもの、再編すべきものなどを明確にし、「なぎさ海道」の取組全体を再構築していくことが必要です。

今後どのような取組をめざすのか、目標（ビジョン）が見えにくくなっているのも事実です。いま一度原点に立ち返って、「なぎさ海道」は何をめ

ざすのか、どのような目標を掲げて取り組むのか、についてしっかりとした総括と検討が必要な時期に来ているのではないかと思います。

おわりに

「なぎさ海道」は、自然環境の保全と持続可能な開発を基本に、社会経済基盤の整備を進めつつ、人と海とが豊かにふれ合う「近づける海辺」、「きれいな海辺」、「活き活きとした海辺」、「人々が楽しみ育む海辺」を目指しています。さらには、海辺のみならず、海・河川・内陸、さらには関西のもつ豊かな歴史的・文化的資源と連携しながら、大阪湾ベイエリアの新たな可能性を創造しようとするものです。

今後とも、「なぎさ海道」が、単に、海岸や公園・緑地等の整備が目的ではなく、国や自治体における観光行政や環境行政、NPO等市民団体の活動等、幅広い範囲で取り組まれ、関西の発展のために広く活用されることを期待しています。

最後になりますが、各地域で行われる行事やイベント等に際して、「なぎさ海道」の趣旨に合致するものについては、一度ご相談ください。後援、啓発グッズの提供等の協力について検討させていただきます。

また、「なぎさ海道」に対するご意見等があれば、お寄せください。関係者の皆様のご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。